



北陸地方整備局では、平成28年度の「手づくり郷土賞」の認定証授与式を、2月21日に関川村役場で行いました。「手づくり郷土（ふるさと賞）」は、社会資本と関わりをもつ地域づくりの優れた取り組みを表彰し、好事例として広く全国に紹介することで、個性的で魅力ある地域づくりに向けた取り組みが進むことを目的として、創設された国土交通大臣表彰です。

「手づくり郷土賞」
(国土交通大臣表彰)を受賞!
〜Koyori no Onna no Koto ni Yume wo...〜

今回の受賞は、甚大な被害を及ぼした羽越水害を後世に伝えるために「えちごせきかわ大したもん蛇まつり」を昭和63年から継続して行い、村民と全国からのボランティアが一丸となって取り組んでいる姿が評価されました。また、全国各地のまつりのパレードにも参加し、各地と交流を持ち全国に知られるまつりに成したことで、「小さな村でもやればできる」と村民の自信と誇りになっていることも評価されました。

授与式では、北陸地方整備局渡辺企画部長から、大したもん蛇まつり実行委員会会長の平田大六村長に認定証が授与されました。

平田村長は、「今年30回目を迎えるまつりで、現在9代目を製作している節目に受賞でき、ありがたく思っている。ますます村の大事なまつりとして守っていききたい」と受賞の喜びを伝えました。

無くては困る大切な税金!

～関川小学校で租税教室～

1月30日、関川小学校で税の仕組みや役割を学んでもらおうと、租税教室が行われました。これは、毎年行われているもので、授業には6年生児童が参加。講師は、役場税務課須貝佳苗主事が務めました。

授業では、ポテトチップス税など世界のユニークな税金の話から、税金の種類がたくさんあることを学びました。また、村の決算から税の使い道について説明を受けたほか、ビデオ学習では、税金があるか無いかで自分たちの生活がどのように変わることかを学習しました。

授業を聞いた船山祥汰さん(沼)は「税金が病院などの運営や建設に使われていることは知っていたが、たくさんの種類の税金があることにびっくりした。大人になったらしっかり税金を納めたいと思った」と話してくれました。



幕下上位を目指す!



角界で活躍中の王輝さん(本名・小池一毅さん)が初場所を終えたばかりの1月25日、平田大六村長を表敬訪問、勝ち越しの報告をしました。

初場所を4勝3敗とし、2場所連続で勝ち越しを決めたことを報告。6戦目で勝ち越しを決め、もう一つ勝ちたいと迎えた7戦目でしたが、立ちあいが思い通りにいかなかったとくやしそうに話していました。勝ち越しはしましたが、納得のいく相撲で勝てたのは1番しかなかったと初場所を振り返っていました。

今年成人式を迎える王毅さんは、「幕下上位15枚目以内と幕下定着を今年の目標に1年間がんばりたい」と話してくれました。

王輝さんは、3月12日からの大阪場所に向けて、2月20日から大阪入りをして稽古に励んでいます。

郷土の食材を学ぼう！ ～ 食育出前講座 ～

子どもたちに食と健康の大切さを知ってもらい、地産地消などについて考えてもらおうと、村内の保育園や小・中学校で食育出前講座が行われました。これは、村の健康づくり計画、食育推進計画に基づく取り組みで、毎年行われているものです。

1月23日に関川小学校で行われた出前講座では、5年生を対象に村の栄養士と食生活改善推進委員が給食に使われている地元の食材や給食の食べ方などをテーマにしたクイズを出題。小学生は電子黒板に映し出されるイラストなどを見て、元気よくクイズに答えていました。

食生活改善推進委員の松田朝子さん（下関）は「小学生の頃から食事に興味を持ってもらい、偏食の少ない食生活を身につけてもらいたい」と食に対する関心を寄せてくれることを願っていました。



文化遺産を守るために！ 渡邊邸防火訓練実施



文化財防火デーに合わせ、1月27日、国指定重要文化財「渡邊邸」で防火訓練が行われました。

訓練には、渡邊邸自衛消防隊員の皆さんや村上市消防本部関川分署、村などの関係者約20人が参加しました。

訓練は、灯油置場から火災が発生したとの想定で開始され、実際に火災報知器を鳴らし、避難指示やお客様の誘導などの避難訓練を実施。また、邸内にある消火栓や消火器の確認や放水銃での放水訓練、村上市消防本部による消火器の使用講習が行われました。

村上市消防本部関川分署山崎分署長は、「自火報が鳴ったら、まずはしっかりと火元を確認することが大切。また、放水銃は飛び火を防ぐ役割を持っているので、いつでも使用出来るように維持管理に努めてもらいたい」と話していました。

訓練終了後は、活発な意見交換会も行われ、参加者は貴重な文化財を守ろうと互いの防火意識を高めていました。



2月7日、関川村農業再生協議会（会長・平田大六村長）が、平成29年産米の作付けに向けた配分説明会を行いました。会場の村民会館大ホールには、農家組合長や集落の代表約100人が出席し、平成29年度の水田農業推進方針の説明を受けました。県から示された関川村の生産数量目標は、前年より8%減少の857袋となりました。減少の背景には、全国的な米

美味しいお米を食べましょう！
29年産米に係る配分説明会開催



の需要量の減少があり、平成27年度の米の1人当たりの年間消費量は55kgまで減少し、ピーク時の半分以下となりました。

そのような状況下で、関川村農業再生協議会では、平成30年産から国の米政策見直し（国による生産数量目標の配分廃止）が行われることを見据ながら、経営所得安定対策による農業経営の安定化、水田を有効活用した作物づくりによる農業所得向上を目指し、認定方針作成者、行政等関係機関が一体となって推進していく方針を決めました。

鉾江沢農家組合長の駒沢辰夫さんは、「生産調整廃止には不安を感じる。米が余って米価が下落することのないように、県や再生協議会で生産数量目標を示してもらいたい」と話していました。

今後、農家による作付け計画が立てられ、雪どけを待っているよ！よ農作業が本格始動します。